

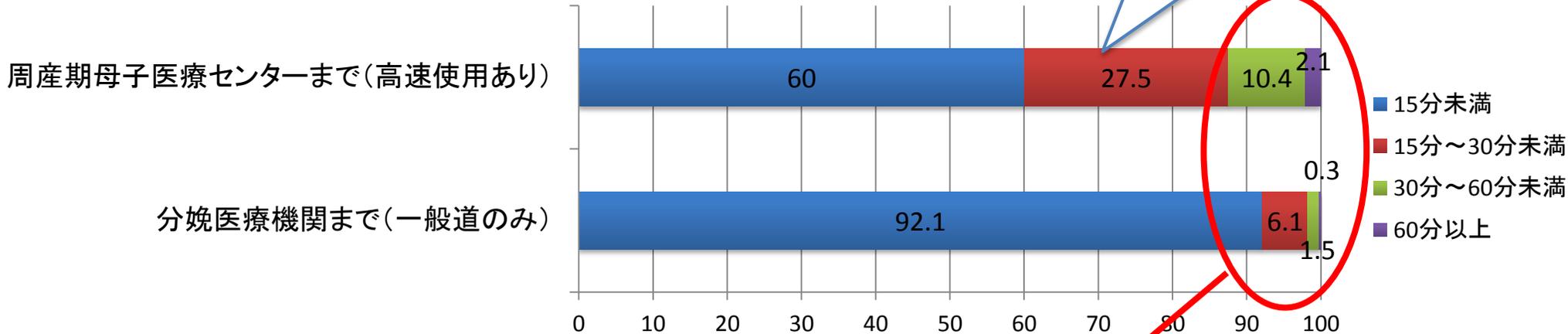
# 分娩機関までのアクセス支援の現状について

# 妊産褥婦のアクセスに関するデータ

## 分娩医療機関までのアクセス(分)と出生数の割合(%)

周産期センター等基幹病院の強化により、緊急事態にも対応できる体制へ

87%の妊産婦が30分以内に周産期母子医療センターに到着可能



一部のへき地在住妊婦にはアクセスを支援

平成26年度厚生労働科学研究費補助金(特別研究事業)  
持続可能な周産期医療体制の構築のための研究(北里大学 海野班)

国際医療福祉大学 准教授 石川雅俊

# 市町村の妊産褥婦に対するアクセス支援(都道府県別)

- 各都道府県毎に市町村で独自に行っている妊産婦、褥婦に対する(主にアクセスに対する)支援の有無を調査。
- 妊婦健診に対する(多くは14回の受診を対象にした)健診助成は除外した。

## 妊産婦の健診・出産に関する補助

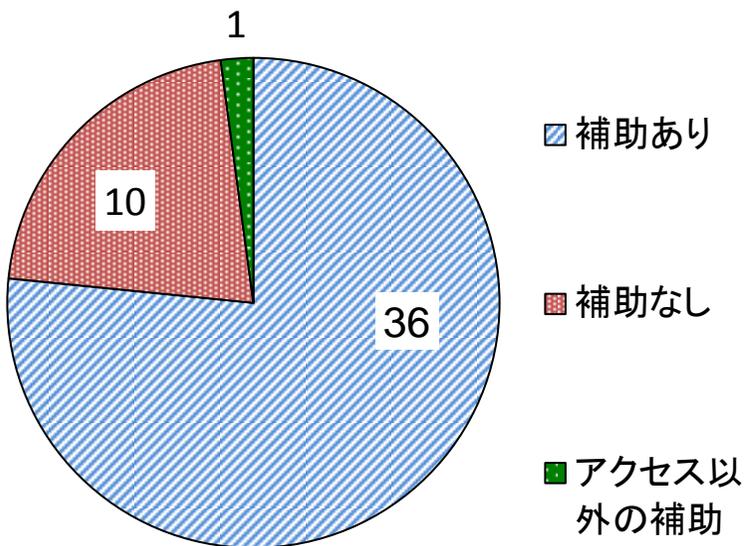


図1 47都道府県中、37都道府県の市町村で独自の支援あり。

## 支援制度のある都道府県数

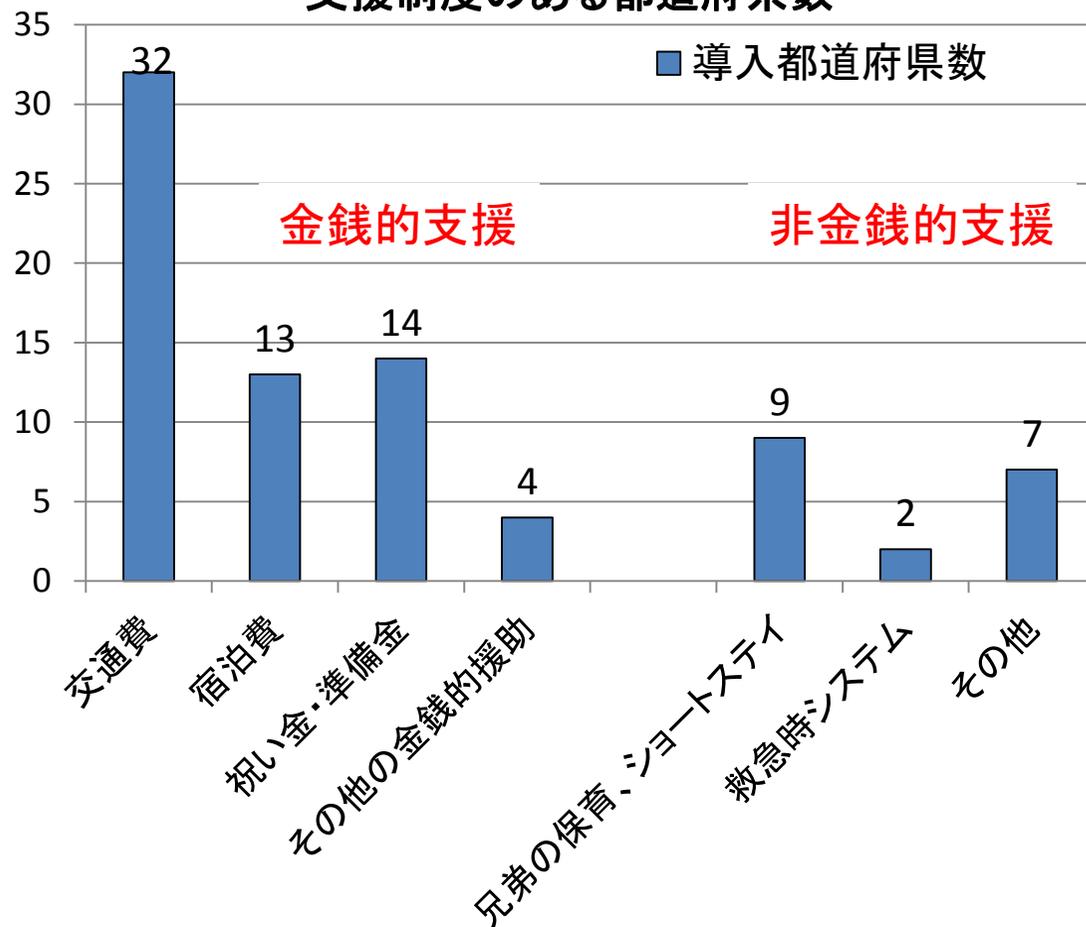
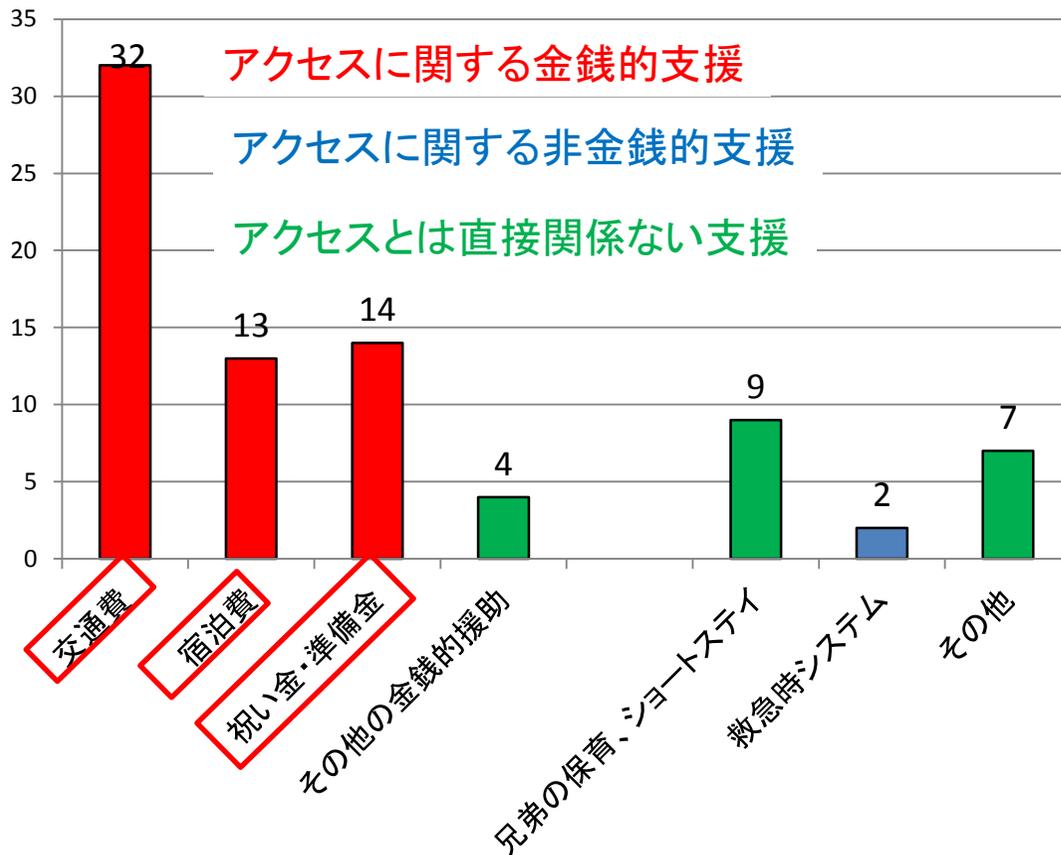


図2 37都道府県それぞれの支援の内容 (複数回答可)

# 市町村の妊産褥婦に対するアクセス支援(都道府県別)

- 交通費や宿泊費の補助、祝い金などの金銭的補助が多かった。
- 特に分娩機関が少ない地域、島しょなどで多く導入されていた。
- 金銭的支援は、市町村毎に差があり、1000円～100万円

## 支援制度のある都道府県数



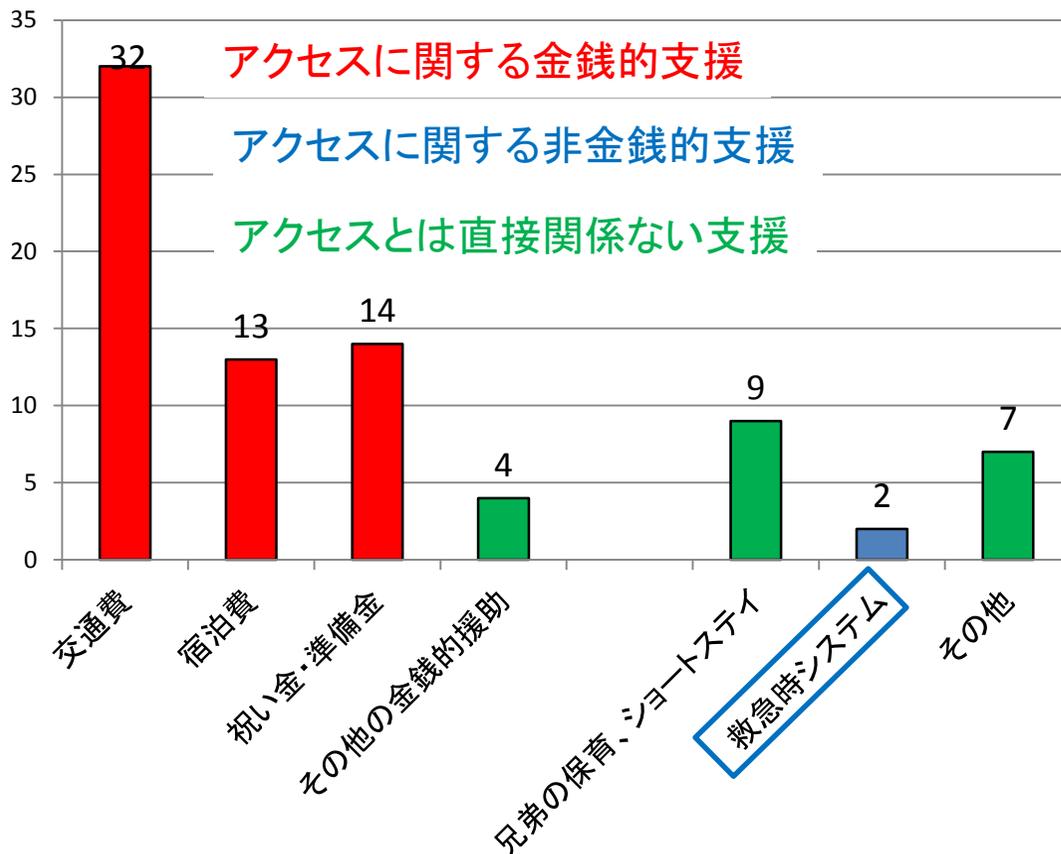
## 交通費・宿泊費・祝い金の支給 の実際

- ・**36**都道府県で施行。
- ・祝い金には「交通費などにも役立ててもらいたいため」の支給もある。
- ・それぞれ別項目で重複して支給している市町村もある。
- ・「一律5万円」、「1回2千円までのタクシー券を14枚」、など支給の形態は様々。
- ・現金、商品券、タクシーチケットなどでの支給が多い。

# 市町村の妊産褥婦に対するアクセス支援（都道府県別）

- アクセスに関する非金銭的支援として、北海道と岡山で行われている事例。
- 消防と連携し、妊娠中の救急受診時だけでなく、陣痛発来時、破水時などでも迅速に救急車を利用できるシステム。

## 支援制度のある都道府県数



## アクセスに対する非金銭的支援 の実際

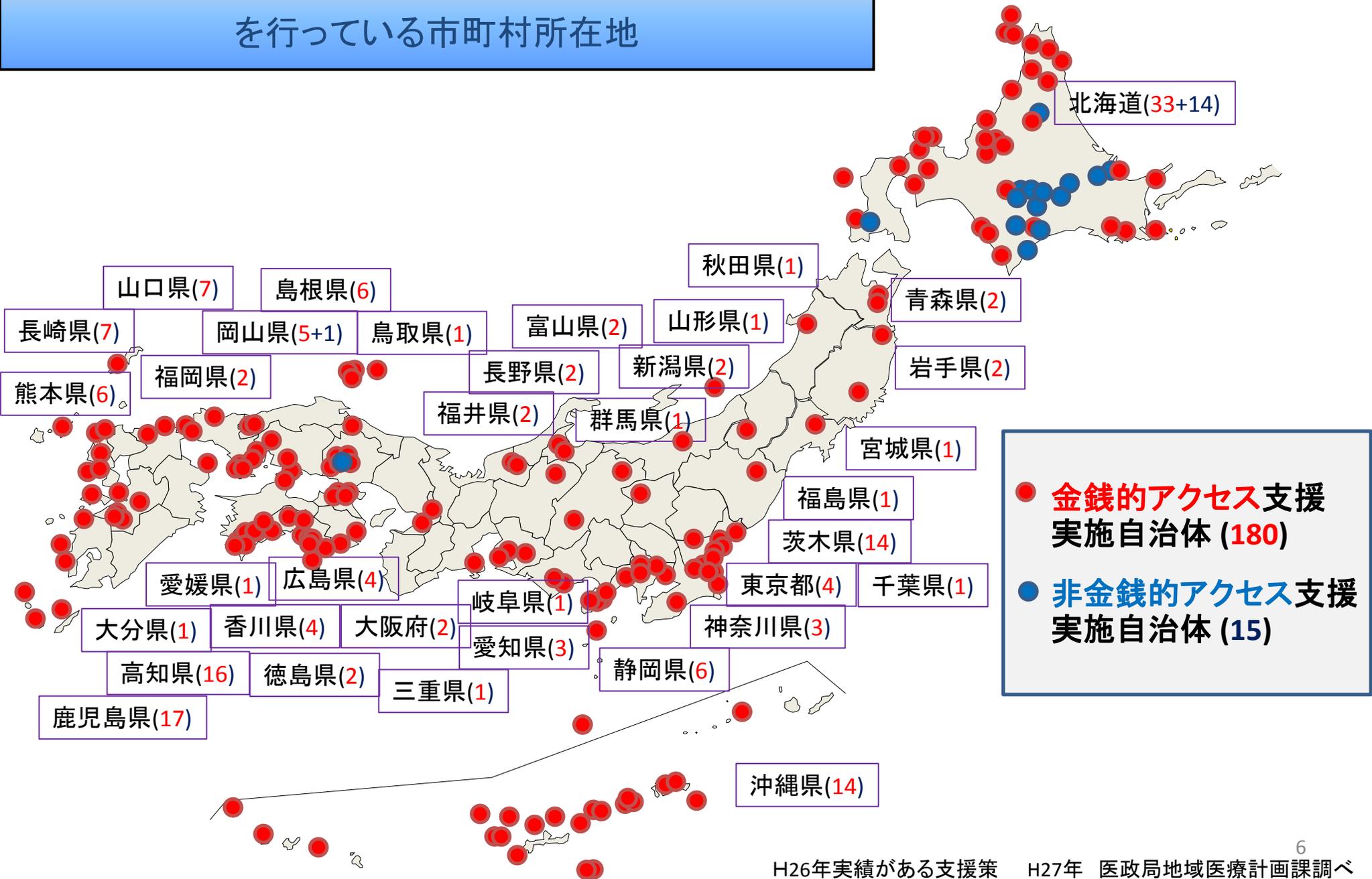
- ・2都道府県計 市町村で施行。
- ・消防と連携したシステム。  
分娩機関へのアクセスを救急車がサポートする。

<事業名: **妊婦エントリーネット119**>  
妊婦情報(住所、かかりつけ医など)を本人申請により事前に消防署登録し、緊急時に救急車でかかりつけ病院に搬送する事業。

<事業名: **ママサポート119**>  
上記と同様の事業。

⇒ 分娩機関が遠くても「**安心感**」

# 妊産褥婦に対するアクセス支援 を行っている市町村所在地



## 市町村の妊産褥婦に対するその他の支援(都道府県別)

- 地方過疎型の市町村地域は「交通費、宿泊費、祝い金」などによる支援
- 大都市は分娩前後数ヶ月「兄弟の優先保育、トワイライトステイ、ショートステイなどの利用サービスを充実させている傾向にある。**地域の実情に応じた支援策**と考えられる。

### 「その他」の取り組み具体例 ～金銭的支援

- 健診追加時(補助券オーバー時)の健診自己負担金補助
- 母子手帳入手前の受診時の費用援助
- 通院や入院をした時の保険診療自己負担の医療費を助成
- 県内の周産期連携システムで健診＋出産した場合に祝い金  
「出産支援連携体制利用奨励金」

### 「その他」の取り組み具体例 ～非金銭的支援

- 健診時送迎に助産師や看護師が付きそうサービス
- 産後の育児不安などに対する医療機関の一時入院サポート
- 災害対策のため情報把握(救急との連携なし)
- 育児ヘルパー派遣や助産師のアドバイス(母乳相談など)